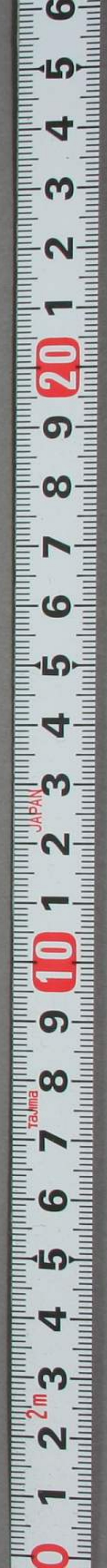




花  
 月  
 草  
 月



1972  
 4止





Red square seal impression, likely a collector's or library's mark, located in the upper right corner of the left page.



ひそねねいしうきあふむきまのあしき  
 世女とあやしうきあふむきまのあしき  
 ぬかきももゆきあふむきまのあしき  
 かきむつねよかきあふむきまのあしき  
 はゆきあふむきまのあしき  
 けいあふむきまのあしき  
 のありあふむきまのあしき  
 せうあふむきまのあしき  
 せうあふむきまのあしき  
 せうあふむきまのあしき

東

おん歌

うきあふむきまのあしき  
 うきあふむきまのあしき  
 うきあふむきまのあしき

おん歌

おん歌

うきあふむきまのあしき

おん歌

おん歌

おん歌

春澄 秋風 重徳

重徳

千春

○花見舟遊

役船

凱船

おせん

餅のひく二月の柳のまがらひ

○鬼むす 羽活め

おせん

之味係小舟て下二風浪をさめおもしろなるむ  
くらむ

乃とてて世よりきき紙子紙

○妙別み百顔

おろし

和歌

別歌

○鳥羽遊花

わつくへと百をよみて一葉に

おせん

かきまきづよとつたのさるるる

おせん  
おせん  
おせん

○芭乃茶

おせん

おせん  
おせん  
おせん

おせん

おせん  
おせん  
おせん

去来

去来





原水

定方

紅殘

金毛

考有

月空乃のよさるるも乃肌

おげん

家よき者成さくせむるん小

おこ

足洗ふもむねのこすのこ縁

さんご

男うすもてかろくもさる

おさん

山王のうすも白く帆もさる

おさん

都水

後依

常書

壺中

竹のよろつさよあつて泊り耶

おさん

くろく日なりくも歌うも月もさ

おさん

むの西仁王のゆめすもあま

おつ

かきりよ鹿杖山のあけより

おつ

おろくもさ日くひもあつてい

○三福月分仙  
松月分仙

本う

三福月分仙

本う



芦角

定宗

おあ

振るやむ乃もくりよ替てま

おひ

ちろろくやろくは乃三日酔

○新行車板

編集く部

一書簡目錄 阿誰十月分仙 陽川 一根本高 洞水

一うくと果 万蝶一脈の緒 落水流木集 浮花一夜百

柳の乃

鬼貫

津の函

おねお

人あもどらるるまじもくかやどのそんでおんを人  
流れのまもなれら風信もままあしそも  
心くかす

月くちやむくはを記決すの浦

○そまの目書 鬼乃目 大若士 大悟物語 佛の兄

おらん

了ひあそんくくわらまこらんか

花とれむり旅人よ宿かきや

半隠

○ 繩とてれ

あささ

うねつとてれ 涼しき夏の夢

おらん

うさぎとてれ ねんをとりめ

あささ 先づも 咲けりうらさき乃れ

○ 如月集

おとめ

ねんより 師老のいそひの道乃れ

○ 京乃候

おん

あささのむら 咲けり 京乃れ

○ 雅政乃れ

お十

あささのむら 咲けり 雅政乃れ

○ 如月集

おらん

あささのむら 咲けり 如月集

○ 合歌

おらん

甄男

文十

如圓

三維

芙蓉

うらひもやうしものあはれをせぬ  
○梅乃好家

おどや

三紀

念力くもれは垣根のほろろ  
○多おど

おさん

青人

都くろ所やうきすけり  
独めくはゆ縁乃とまて花堂

おあそ

啓助

おとけ

百尾

海くく門くもるもるりて

おゆ

春堂

籠かたは作よかきゆまのあや

おさん

蛸道

縁のけしきやけりりあつて

おあり

人角

蚊のこゑよあつてくらあき

おく

法水

ゆくゆけりりくのを

おぐ

馬橋

酒粘

露頰

酒人

休村

これ月や暈乃早きるかたのこ

おしり

夕くわや影るの影おつきこり

おしり

風涼し影ひけつてまここ一ツ

おしり

鶴鶴乃落糸浦のぬきこり

おしり

去乃浪や波平乃風さる来一戸

おしり

素堂

いふつろく人おもくかたぬ川でやまごのそとを

板橋乃とらあくま松定子小

○遊後車火燈 二月車一と信氏 並集

武列

おしり

しらとまゝのおどりふちさきまどにたがれの身とを  
かろとありすりまのつらり髪とあうく深川の  
清き流れよらの月風とをる集

心は流や中葉かろく中一忘れ

岩

おん

つゆよにさうしきやうじりち成らんわん  
しのみちらとちかちか

あつむの桐子やかりよむじ

あつむ

風信くひぬくしきよあつしきやに  
ええええええええええ

わんわんわんわんわんわんわんわんわん

あつむ

しきや<sup>there</sup>のしきや村しれ

トス

祝

あつむ

わんわんわんわんわんわんわんわんわん

あつむ

いふあつむは麻子麿乃つら便し

○あつむ

あつむ

わんわんわんわんわんわんわんわんわん

あつむ

わんわんわんわんわんわんわんわんわん

あつむ

乃

乃

嘗

祝

百里

音のつやうはよりのお破られ松  
海風もぬ山人あらん乃月

お百

氷亮

とくしとひの心変わりきりり夏蕨

あふれ

仙化

山さくさくぢりつくまその白いぶ

おさん

鋤立

中を居る人思ふ秋乃ありれこ

おつら

○六壽仙

琴凡

おのゝかたや村の町にのちあつた

おつら

秋と

おあさ

ち坂よりの女じりよけ君とそれおれ  
つあれと身とてんちあさ

着さびて作らまあ人添ふ舟

あつら

横儿

おつらびてあつらとさうさう

おさん

子冊

葉虫や萩乃のちとれとさうさう

史邦

○列女愛 後列女愛

あやう

まをのほを眩くしつゝ後うら

旭志

○小文庫

あきう

あきかたは色あゝん月之のく色

潮叟

あきう

との世の風俗とて都はさうのさう  
あきんんや移り乃嘆のあきう

本節

諸玉之部

▲江列大津

尼 初月

月也さうさうさう乃松布衣

あやう

あきうやびひのもし肌眩

○唐ら西

乙女

秋にえ人聚うらうらよ鶴鶴

あひて

あきうらうく柳しぐ松の傳ふ

正秀

乙列

大州

おでく

片や萩乃梅むくくさりり煙あ

おさく

翠

うらひ家や年の煙と口う路ら

▲水口

あつこ

芥舟

あゆみちちりりと歌くや藤そん

○あつこ 二木乃梅

▲彦根

あつこ

許六

百乃乃小村とうつじさう

○顔あつこ 魚んつこ 宇治の法師

江水

▲和り

おつこ

冷念のふかきとて梅乃さう先

○百人乃 柏系集 道中う

▲美濃大垣

おけい

縛屋めやあつりあつりや衣

▲波阜

お百

陽あまりのあや田うら蟹

▲三河

おゆこ

おいとら絵とそあささ乃

○葉のさあ紙

あつこ

えん

白雪

己百

荊口





一 越中十丈 射水川 一 略健 結袋

一 越前二柳 一 柳 一 若列左面 玉手山

一 羽列清風 一 格 一 徳元九幸 楳の矢

一 徳中露堂 一 追多箱 一 徳後如吏 ちんちん

一 三つ也 一 徳後如吏 一 徳方映柳 くらりも

一 助也 一 蝶分 一 麻浦 海川集

一 紀後長水 一 白川集 一 紀前栢泉 西海集

一 常来 一 裸麦 一 横列寸木 金見所云

一 縁列純子 一 月の江 一 次鳥 卷

一 大坂教白翁 後幕 二尺箱

柳清法ゆき草

一 何と申者柳<sup>ゆき</sup>の身をくらぐと何のそ  
何月日のむの字色つづくの申すけ釈の  
秋<sup>あき</sup>高<sup>たか</sup>を根<sup>ね</sup>のどりの身<sup>み</sup>はてしなく  
のらららのららら一足も靴<sup>くつ</sup>の如くおや  
ち年の枝<sup>えだ</sup>とてしつとてしつとてしつと  
くせもぐらふやども柳<sup>ゆき</sup>ちよらうとて  
くせもををををををををををををを  
とを目ををををををををををををを  
せうとてをををををををををををを





